

2018 年卒
Vol.10

9 月 1 日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2018 学生モニター調査結果 (2017 年 9 月発行)

正式内定日(10月1日)を1カ月後に控え、2018年卒業予定者の就職採用戦線は大詰め段階だ。9月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は9割を超えていた。少数派となった就活継続学生の動向や、就職先決定学生の内定者集合など、最新の調査データを紹介したい。

1. 9月1日現在の内定状況

- 内定率は91.4%。8月調査(88.2%)より3.2ポイント上昇。
前年10月調査の内定率(91.2%)を上回る高水準に
- 内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは91.6%。
モニター学生全体を分母にとると、就職先決定者は83.7%。就活継続者は1割強

2. 就活継続者の今後の動向

- 持ち駒企業は平均2.3社。月を追うごとに減少
- 「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」41.3%。先月より7.1ポイント増
- ここまでの就職活動で後悔していることは、「自己分析」54.9%、「業界研究」46.0%、「企業研究」45.1%、「面接試験対策」40.7%の順

3. 就職決定企業の内定者集合

- 「内定者集合があった」6月調査28.0% → 9月調査57.0%に

4. リクルーターとの接触

- リクルーターとの面談経験がある学生は34.5%
- 接触した時期は、「4月」55.8%、「3月」48.1%の順。3月より前の接触も一定数存在
- 接触して良かったこと「企業理解が進んだ」78.2%、「アドバイスをもらえた」56.7%
- 企業に求めるもの「色々な年次の人に会いたい」が最多(52.8%)

5. 企業からのフィードバック

- 「本選考での選考中」にフィードバックを受けた学生は55.2%。
「インターシップ参加後」53.7%、「内定通知時(通知後)」49.6%の順
- フィードバックを受けた感想「とても有り難かった」62.6%、「やや有り難かった」32.1%

調査概要

調査対象 : 2018年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,123人(文系男子369人、文系女子322人、理系男子279人、理系女子153人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2017年9月1日~6日
サンプリング : キャリタス就活2018学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

1. 9月1日現在の内定状況

9月1日現在の学生モニターの内定率は91.4%。先月調査(8月1日時点)の88.2%からさらに3.2ポイント伸び、9割を超えた。昨年は9月に調査を実施しなかったため前年同時期比較はできないが、昨年10月1日時点の内定率(91.2%)をすでに上回っていることから、かなり高い水準と言えるだろう。正式内定日である10月1日を間近に控え、就職戦線は大詰めを迎えている。

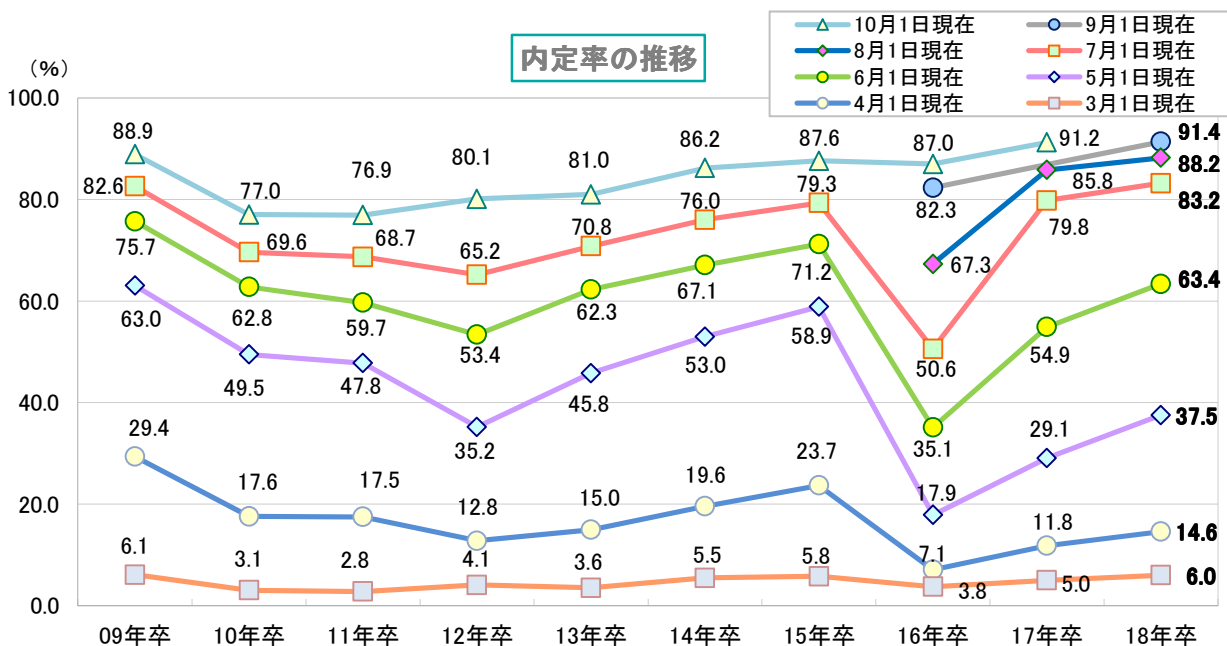
内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは91.6%。8月調査(87.1%)より4.5ポイント増えた。モニター全体を分母にとると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は83.7%(グラフは次ページ)。複数内定を保留しているなど未決定である者(2.9%)を合わせると活動終了者は86.6%となる。グラフでは昨年10月調査の値と比較してみた。

9月1日現在の内定状況

*「内定」には、内々定を含む (%)

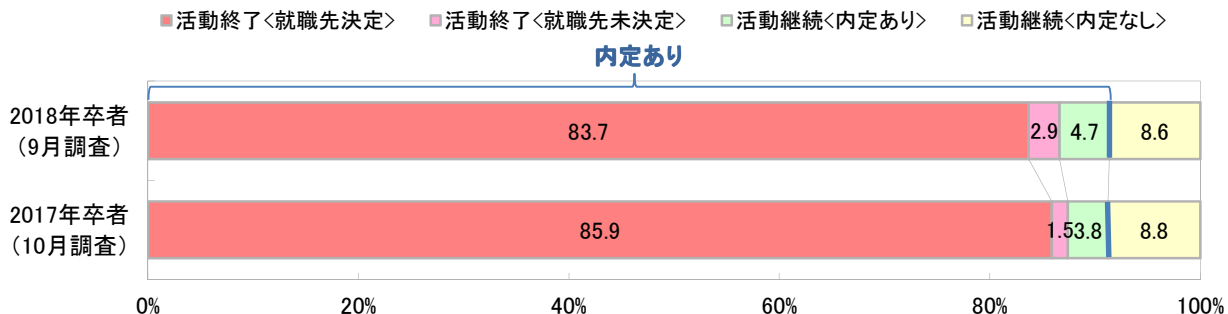
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	
内定あり	91.4 (88.2)	88.6 (84.7)	92.9 (90.7)	90.3 (87.7)	96.7 (92.6)	
内定なし	8.6 (11.8)	11.4 (15.3)	7.1 (9.3)	9.7 (12.3)	3.3 (7.4)	
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	91.6 (87.1)	87.2 (82.2)	92.0 (85.0)	94.8 (92.3)	95.3 (92.7)
	活動は終了したが複数内定保持	2.8 (4.0)	4.9 (5.8)	2.3 (4.3)	2.0 (3.0)	0.7 (1.3)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.4 (0.5)	0.3 (0.6)	0.3 (0.3)	0.4 (0.4)	0.7 (0.7)
	就職活動継続	5.2 (8.4)	7.6 (11.3)	5.4 (10.3)	2.8 (4.4)	3.4 (5.3)
内定社数/平均	2.3 (2.3)	2.4 (2.4)	2.2 (2.2)	2.3 (2.2)	2.2 (2.1)	

※前年は9月のデータがないため、()内は先月(今年8月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17卒・18卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

学生モニター全体の活動状況



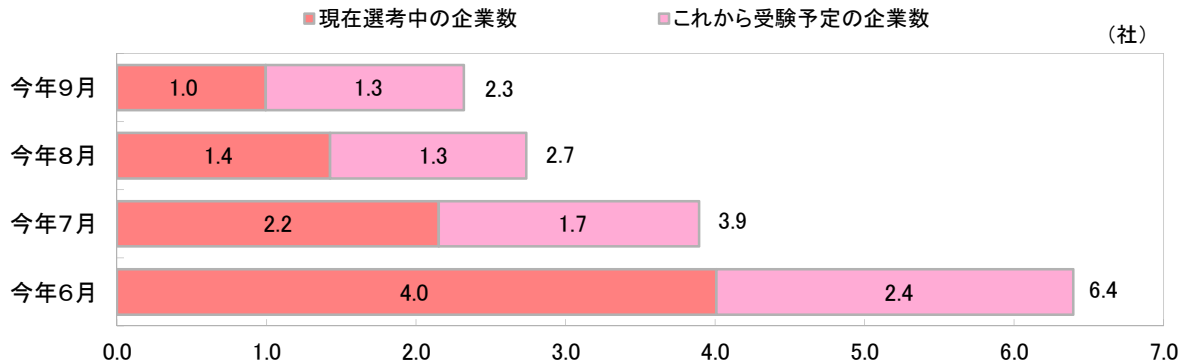
※2017年卒者は10月調査のデータ

2. 就活継続者の今後の動向

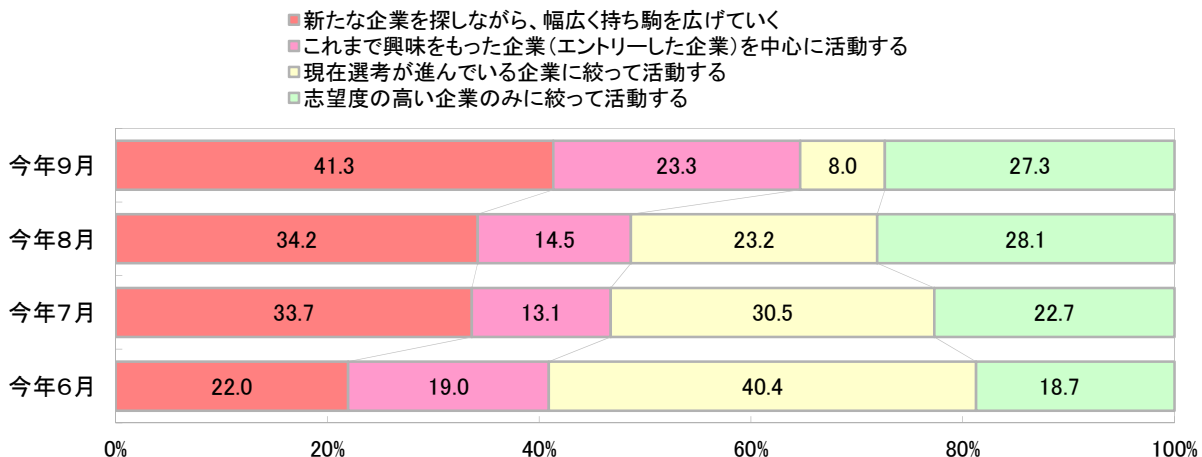
内定保持者も含め、就職活動を継続している学生（モニター全体の13.3%）に尋ねたデータをいくつか紹介したい。まず、現在選考中の企業数は平均1.0社。これから受験予定の企業数1.3社を足し合わせた、いわゆる持ち駒企業数は2.3社。6月以降、月を追うごとに減少している。

今後の方針・戦略を見ると、「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」が最も多い（41.3%）。先月調査（34.2%）より7.1ポイント増えており、今ある持ち駒では不十分だと感じている学生が多いことが推察できる。

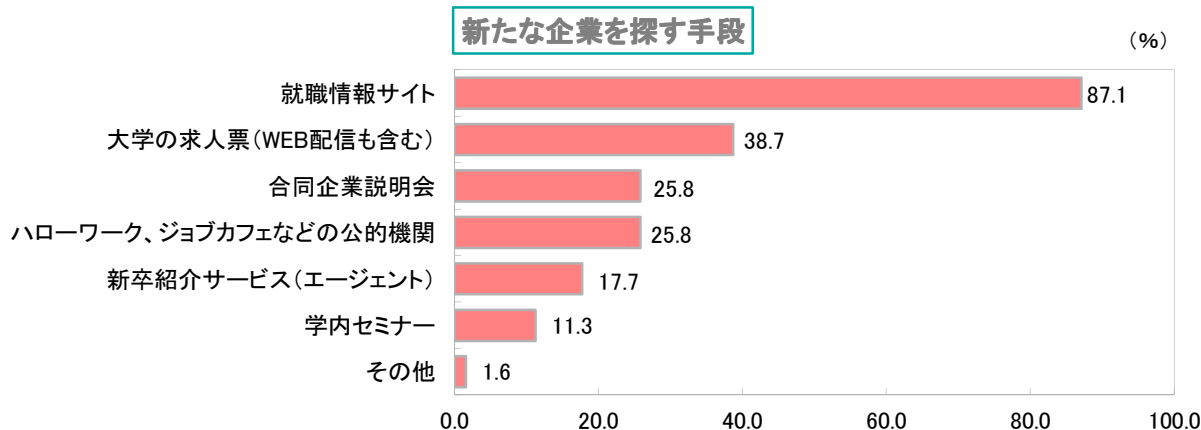
現時点の持ち駒企業数



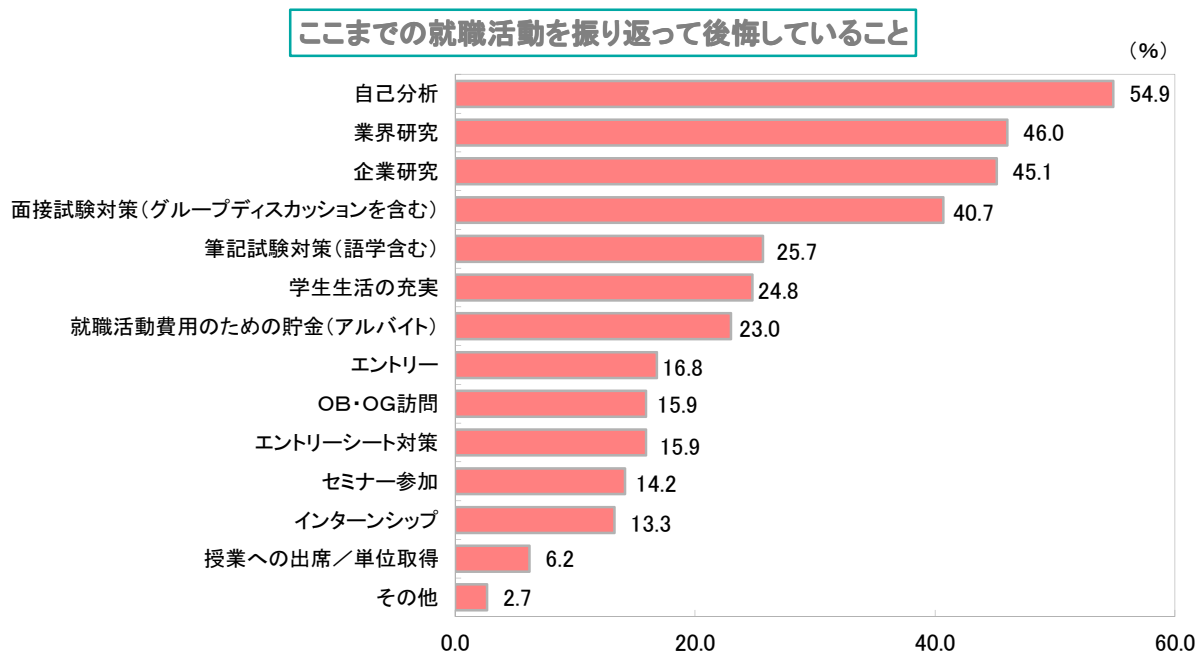
今後の就職活動の方針・戦略



新たな企業を探しているという学生が実際に企業を探す手段（ツール）は、「就職情報サイト」が依然として最も多い（87.1%）。一方で、ハローワークなどの「公的機関」が先月調査より増えるなど（18.5%→25.8%）、多様なチャネルを使って採用継続企業との出会いを模索する動きが見られる。



就活継続学生のうち、ここまでの就職活動で「後悔していることがある」という者は4人に3人（75.3%）。どんな点を後悔しているのかを複数回答で選んでもらったところ、「自己分析」が最も多く、54.9%と過半数が選んだ。次いで「業界研究」46.0%、「企業研究」45.1%と続き、「面接試験対策」までが4割を超える（40.7%）。売り手市場と言われていたからか、準備不足のまま臨んでしまったという声が目立つ。



■就活継続学生が後悔していること

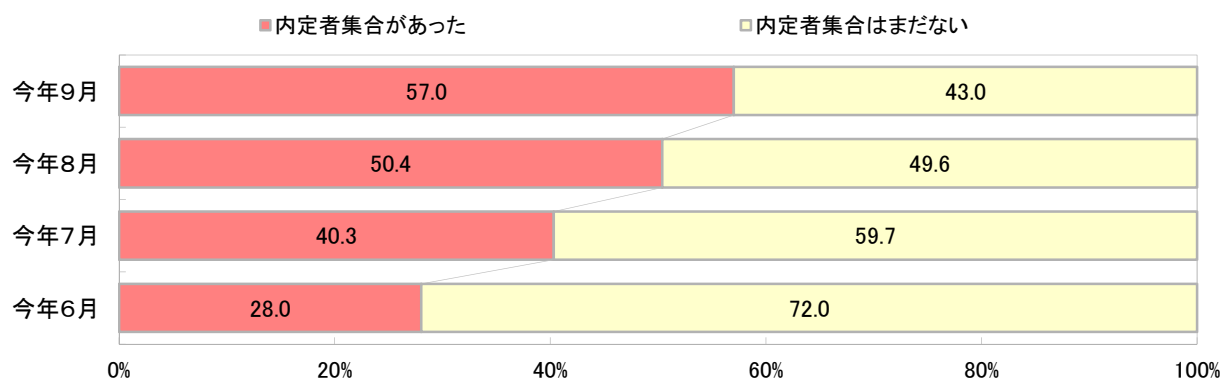
- 自己分析にこんなに悩むと思っていなかった。油断しました。 <文系女子>
- 自己分析をせずに本番を迎えたので、面接で捻ったことを聞かれ即答できないことが多かった。 <理系男子>
- インターンがスイッチになると思う。早い段階で経験しておくべきだった。 <文系男子>
- 企業研究。最終面接で差が出てしまった。 <文系女子>
- 就職活動が始まってから面接は思ったより難しいことを実感しました。だから、就職活動が本格化する前に面接対策をしっかりとっておけばよかったと少し後悔しています。 <理系男子>

3. 就職決定企業の内定者集合

就職先を決定して就職活動を終了した学生に、これまでの内定者集合の有無について毎月尋ねたものを比較してみた。6 月調査時は「内定者集合があった」という回答は 2 割台だったが (28.0%)、翌月の 7 月調査では 40.3%へと 10 ポイント以上増えた。6 月の 1 カ月間に内定者集合を行った企業が増えた様子がうかがえる。

その後、8 月調査時で 50.4%、今回の 9 月調査では 57.0%と、毎月増加。学生の夏季休暇に合わせ、内定者の顔合わせやレクリエーション、研修などを行った企業が多かったようだ。学生からは社員や他の内定者との交流を通して親交を深め、楽しんで参加している様子が多数報告された。

就職決定企業での内定者集合の有無



■内定者集合の内容

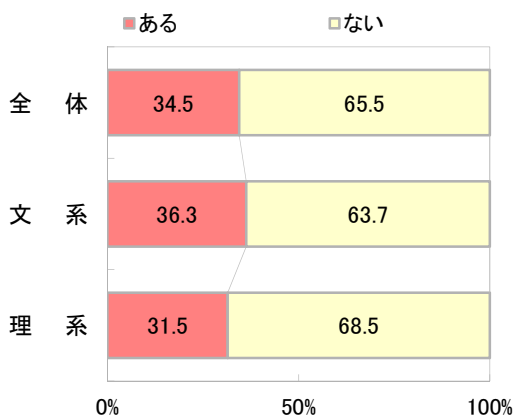
- 2 日間にわたって、内定者インターンという名の下で会社説明やグループワークが終日行われた。
<6 月上旬参加/金融>
- 会社の施設見学会に一泊二日で行った。旅費はお土産を除きすべて会社が多めてくれた。
<6 月中旬参加/エネルギー>
- 本社にて懇親会があった。業務内容や直近の業務成績について簡潔な説明を受けた後に、内定者約 100 名の自己紹介の時間が設けられた。その後、食堂にて立食会が実施された。
<6 月下旬参加/金融>
- 女子内定者と女性社員との懇親会。仕事内容や家庭との両立などの話を聞いた。
<6 月下旬参加/流通>
- 会社の取引先向けイベントに招待された。そこで内定者ガイダンスを行った後、企業の人に混じりイベントを自由に見学。夜は懇親会があった。
<7 月上旬参加/IT>
- 研修施設で TOEIC を受験した。その後で懇親会が実施された。
<7 月中旬参加/金融>
- 全部署の内定者が対象の懇談会。名刺交換などのマナーについて簡単に講習を受けた。
<7 月下旬参加/製造>
- 事務系内定者のみの集合。全部で 6 時間ほどの内容。最初の 3 時間で自己紹介と軽いワーク、会社の近況報告などを受ける。その後、会社の福利厚生施設で人事社員の方々とお酒を飲みながら交流会を行った。
<7 月下旬参加/製造>
- チームワークの大切さについて講義を受けた。その後グループディスカッションを行い、課題に取り組んだ。この活動を通してチームワークの大切さを学んだ。その後、立食パーティで内定者懇親会を行った。
<8 月上旬参加/製造>
- 4 年目社員の方とバスツアー。バーベキューと桃狩り。その後、社長などとカフェで話をする会があった。
<8 月上旬参加/サービス>
- 2 回目の懇親会があった。内定者の参加者が前回よりも増え、内容は似たようなことだったが盛り上がりがあった。
<8 月中旬参加/IT>
 (自己紹介、オリエンテーション、社長講話の後、飲み会)

4. リクルーターとの接触

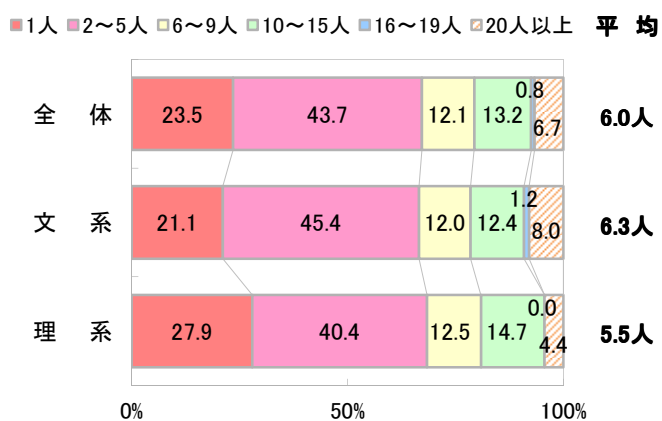
就職活動中にリクルーターとの面談経験があると回答した学生は 34.5%。3 人に 1 人の割合だが、文理でやや差が見られ、文系 (36.3%) のほうが理系 (31.5%) より約 5 ポイント高い。また、文系学生は接触した人数も理系を上回る (文系 6.3 人、理系 5.5 人)。

接触した時期の分布を見ると、「4 月」(55.8%)、「3 月」(48.1%) の順に多く、採用広報開始後の接触が主だが、3 月より前の接触も一定数あったことがわかる。特に「インターンシップに参加したら連絡が来た」と回答した学生において、3 月より前の接触が目立つ。

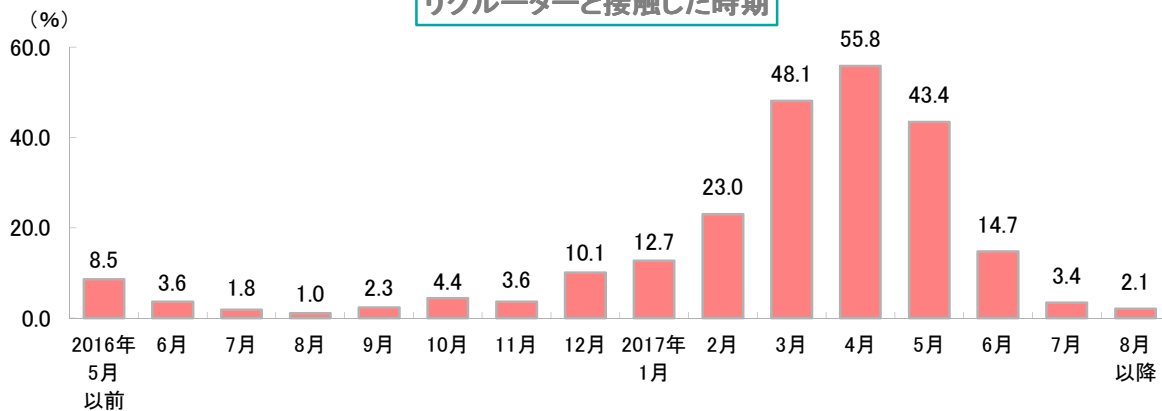
リクルーター面談経験の有無



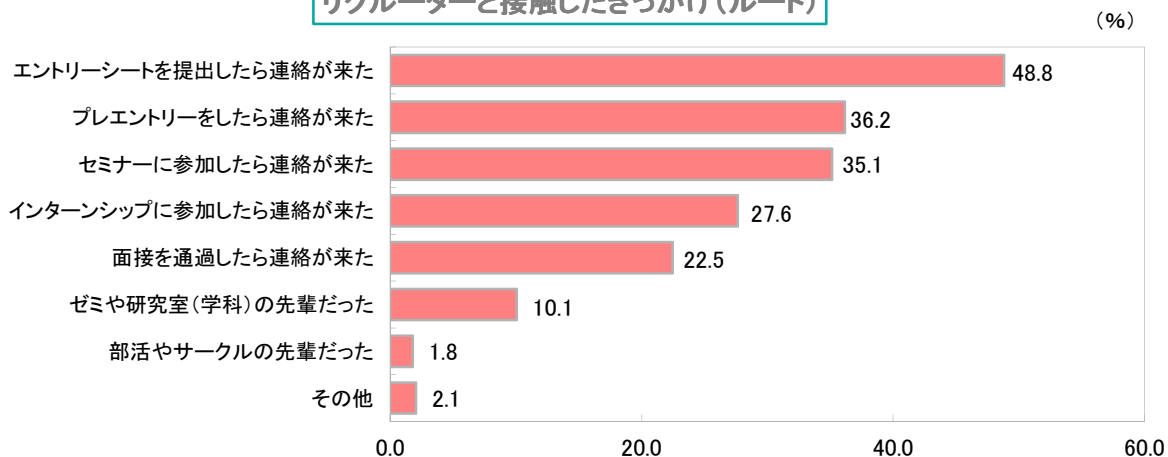
面談したリクルーターの合計人数



リクルーターと接触した時期

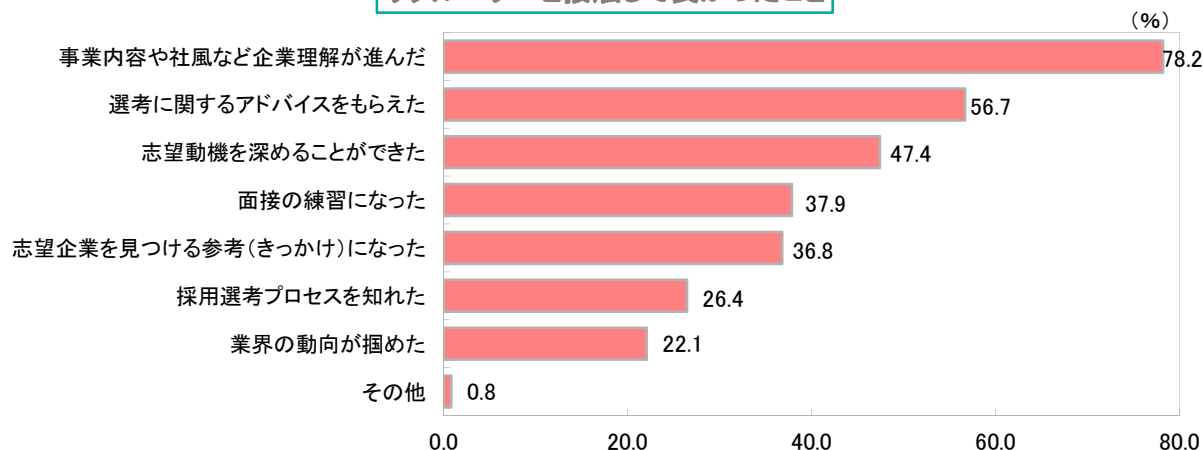


リクルーターと接触したきっかけ(ルート)

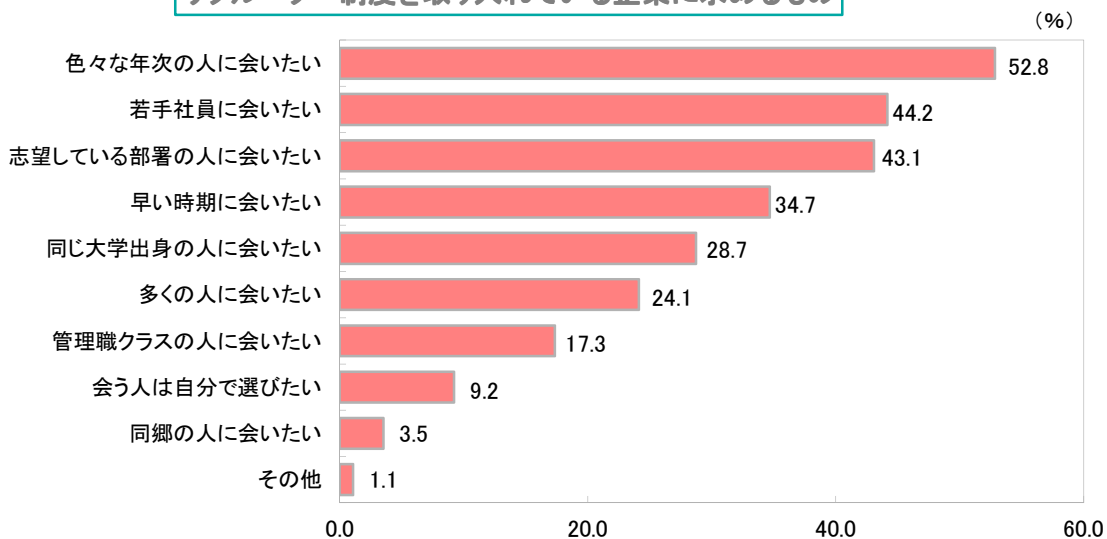


リクルーターと接触して良かったと感じている学生は94.8%で、概ね好意的に受け止められていることがうかがえる。接触して良かったことを複数回答で尋ねると、「事業内容や社風など企業理解が進んだ」が最も多く(78.2%)、セミナーや会社説明会だけでは理解が不十分だった部分をリクルーターが補う役目を果たしていることがわかる。一方で、企業側に求めるものとして「色々な年次の人に会いたい」を過半数があげており(52.8%)、幅広い年齢層の社員と話すことによって、より一層理解を深めたいという学生が多いようだ。

リクルーターと接触して良かったこと



リクルーター制度を取り入れている企業に求めるもの



■印象的だったリクルーター (態度、服装など)

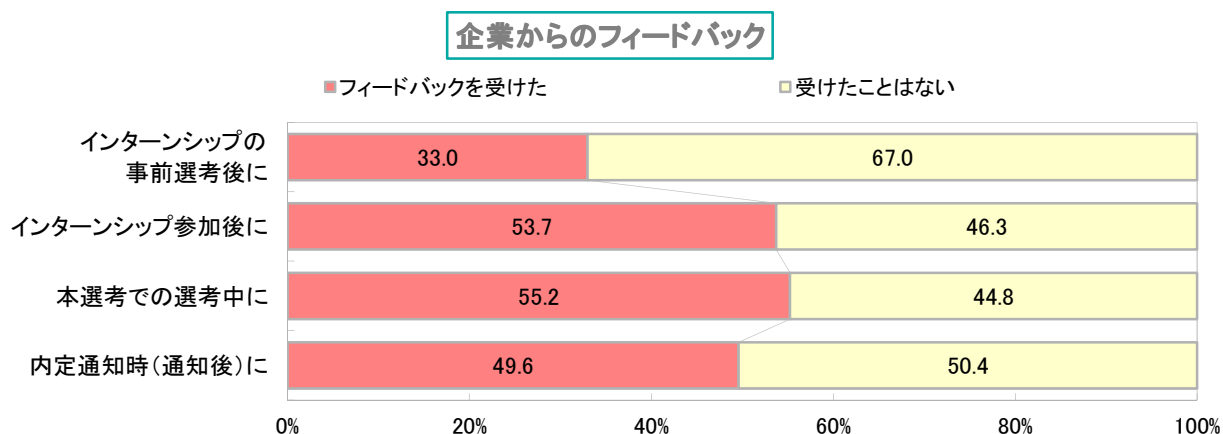
- 証券会社の方で、イメージ通り仕立ての良いスーツと佇まいで、とても洗練された方だった。 <文系男子>
- 自分の話に相槌を打ちながら聞いてくれた方。誠実だと感じた。 <文系女子>
- こちらに質問をしてくるのではなく、評価シートのようなものに点をつけており、なにを基準に採点されているのか気になった。悪い印象はなく、単に不思議に思った。 <文系女子>
- ざっくばらんに何でも話してくれるリクルーターが好印象だった。中には、忙しいのか、あまり質問させてくれない人もいた。 <文系男子>
- 胸ポケットにたばこが入っていて印象が悪かった人がいた。 <文系男子>
- 一番印象的だった人は、終始とても高圧的で非常に気遣いするような方でした。飲み会の時の態度を見て、入社したら将来こういう人と付き合いなければいけないのかと思うと志望度が下がりました。 <理系男子>

5. 企業からのフィードバック

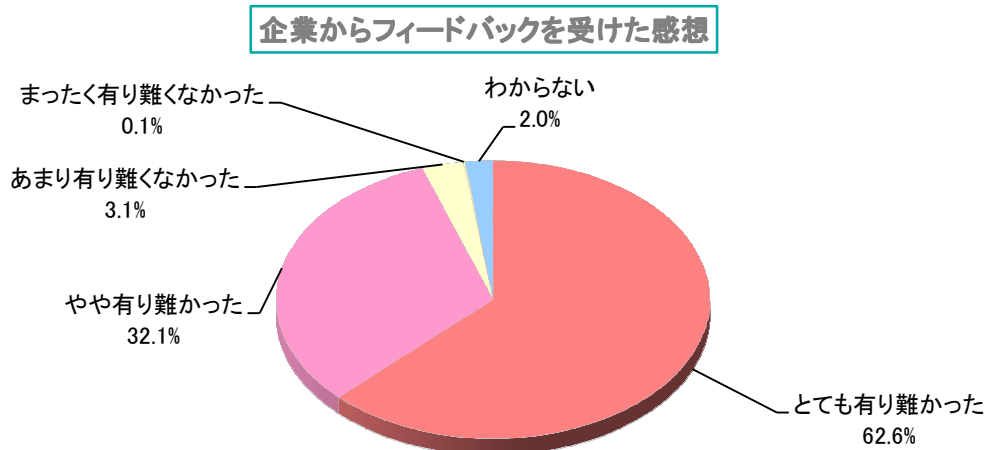
企業から評価などのフィードバックを受けた学生はどのくらいいるのだろうか。フィードバックを期待できそうなシーンごとに尋ねてみた。

フィードバックを受けた学生が最も多かったのは「本選考での選考中に」で55.2%。面接試験の最後に評価を受けたり、面接通過連絡の際に次の面接に向けてアドバイスを受けたりした学生が多いようだ。また、「インターンシップ参加後に」も半数を超える経験率だが (53.7%)、フィードバックを期待してインターンに参加する学生からすれば、やや物足りない数字かもしれない。

フィードバックを受けた学生の感想は、「とても有り難かった」が6割を超え (62.6%)、「やや有り難かった」(32.1%) を合わせると9割超 (94.7%) が、感謝を表している。



※それぞれ、その経験自体をもたない者を除いて集計



■就職活動についての今の心境

- 内定式を来月に控え、少し就職の実感が湧いてきた。内定を得たのが早かったため、来年の就職までの期間が空いてしまうのがなんとなく不安。 <文系男子>
- やっている時は辛かったけど今考えるとあっという間。もう少し時間をかけて就活したかった。 <理系女子>
- 就活終了後のフォローもより充実すると嬉しい。 <文系女子>
- 終わって見るととても呆気ない。一方で、同期として働くことになる仲間との交流が少しずつ深まっている。来年から働くということに対する期待も増すばかりだ。 <文系男子>
- 自分自身の就活は終わったので、後輩に適切なアドバイスをしてあげたい。 <理系男子>